

特集 シンポジウム報告 開会挨拶

シンポジウム「環境と文明」開催に向けて

山本和重 文明研究所所長

ご紹介いただきました、東海大学文明研究所、所長の山本です。本日は、オンライン形式での「文明間対話」サテライト・シンポジウム「環境と文明」にご参加いただき、ありがとうございます。

主催団体ということで、ひとこと、ご挨拶をさせていただきます。

本研究所では、人間の営為の所産である文明を、様々な側面から検討しております。文明と環境との関わりにつきましても、地震という自然災害を契機として研究活動を進めてきました。

2011年3月、東日本大震災という未曾有の大規模自然災害が occurred。この震災が現代文明に投げかけた諸問題に取り組むために、2011年度から研究プロジェクト「東日本大震災と文明」を設けました。そこでは、津波災害への多重防御策、再生可能エネルギーの活用方法、水産業と漁村の復興支援策などを研究課題といたしました。2014年度からは、その研究プロジェクトを、コア・プロジェクト「震災復興と文明」として継承し、人間学的観点による「復興におけるランドスケープの形成」、歴史学的観点からの「江戸期の大震災と東日本大震災の史的比較」、工学的観点からの「防災・減災のためのハード対策とソフト対策」といった個別課題を設定し、復興過程が問われているさまざまな文明論的課題を明らかにしつつ、望ましい復興政策について検討いたしました。本日の田中報告は、このプロジェクトの「復興におけるランドスケープの形成」にもとづくものです。

本学は、2016年4月の熊本地震で、九州キャンパスが被災いたしました。この熊本地震で被害をうけた九州キャンパスにおける震災復興を視野にいれた環境研究と

して、2017年度から「森里川海研究プロジェクト」を設けました。プロジェクトの代表は、本シンポジウムのコーディネーターであります平野所員です。「森里川海」は、環境省が実施している環境教育・研究プロジェクトの名称でありまして、2018年1月に本学と環境省、熊本県の三者で締結した協定、「阿蘇地域の創造的復興に向けた地域循環共生圏の構築に関する協定」の下、阿蘇草原を中心とする水文学研究、並びに阿蘇地域の震災復興を目指した地域連携活動を進めました。そして、この「森里川海研究」のテーマを、人間の営為と環境の保全との関わりという視点から、文明社会の在り方を検討するものとして、2019年度から「人間営為と環境の関係性—人文学・社会学の視点から」という研究プロジェクトを進めております。生活の質QOLと環境との関わりという観点から「環境QOL」という概念を設けて研究を行っています。このプロジェクトの代表者が中嶋研究員で、本日の報告もその延長線上に位置づけられます。本日のシンポジウムは、主に「森里川海研究プロジェクト」「人間営為と環境の関係性」プロジェクト、ならびに平野所員がリーダーであります「超領域人文学構築に関する基礎的研究」の研究活動が基礎となっております。

地震のような自然災害が人間の営為、生活に大きな影響を及ぼす一方で、人間の営為が自然環境に影響を与え、それが災害などをもたらすということもあります。昨年来の新型コロナウイルスなどによる感染は、人間による自然開発による新たな病原体との接触によるものですが、産業革命以来の、CO₂をはじめとする温室効果ガスの排出による地球の温暖化、それによる海面上昇、干ばつ、洪水などは、地球の生態系全体に深刻な影響を及ぼしております。CO₂排出量の削減は喫緊の課題となって

おります。先月イギリスで開催された COP26（第 26 回気候変動枠組条約締約国会議）では、平均気温の上昇を 1.5 度未満に抑える「グラスゴー気候合意」が採択されましたが、CO₂ 削減は私たちの生活スタイルの変更を必要とする、なかなか難しい課題です。

本日、「カーボンニュートラルをめざす時代と里山イニシアティブ」のご講演の予定でありました、九州地方環境事務所の岡本光之所長は、阿蘇での勤務での経験などをふまえ、地域社会における伝統的な知恵と、最先端の技術や知識とを融合させた「里山イニシアティブ」、環境と文明の統合を提唱されています。司会からもご説明がありましたように、本日は体長不良のため、残念ながら、岡本所長からのご講演を拝聴することはできませんが、入院中という不自由な状況にもかかわらず、予定

されていたご講演の内容についてのメッセージをいただきました。このメッセージをもとに平野所員がパワーポイントを作成し、補足をまじえつつ読みあげる、という形式をとらせていただくことになりました。当初の予定とは異なることになりましたが、ご理解のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

なお、最後になりましたが、これまで申し上げた本研究所の研究活動につきましては、本学文学部並びに文学研究科の補助や、環境省の環境研究総合推進費「阿蘇をモデル地域とした地域循環共生圏の構築と創造的復興に関する研究」による支援をいただいております。関係各位に感謝申し上げます。

以上、開会のご挨拶とさせていただきます。